



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階

☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <http://www.jcancer.jp/>

主な
内容

2～3面 RFLJ2017年報告

4～5面 2018年RFLヒーローズ・オブ・ホープ決定

7面 注目される
「カーディオ・オンコロジー」

全国縦断 がんサバイバー支援ウォークを開始

垣添忠生・日本対がん協会会長

全国がんセンター協議会加盟の32施設 半年かけて行脚

日本対がん協会の垣添忠生会長は、がんと診断された人(がんサバイバー)への支援を広く国民に訴えようと、2月5日から約半年かけて、全国がんセンター協議会の加盟32施設を行脚する「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」を始めた。自らも大腸がんと腎がんのサバイバーでもある垣添会長は、一部交通手段を使用することもあるものの、体調と日程が許す限り32施設を歩いて回り、全国のがんサバイバーにエールを送るとともに、がんサバイバー支援を広く呼びかけていく。

2人に1人ががんになる時代で、がんサバイバーは全国で約700万人を下

らないとみられるが、病気の実態や患者の悩みも周知されておらず、就労や生活、心のケアなど、がんサバイバーの支援は不十分なままとなっている。

そのため、日本対がん協会は昨年6月、がんサバイバーが「希望と共に生きる」ことのできる社会をつくることを目的に「がんサバイバー・クラブ」を立ち上げた。公式サイト(<https://www.gsclub.jp/>)で、がん関連ニュースや患者会、イベント等の情報を提供し、患者交流型のイベントも開催してきている。

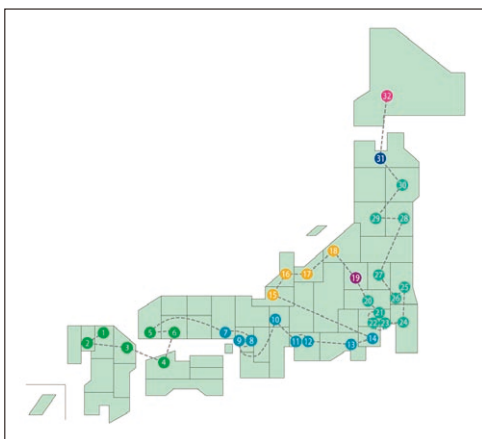
全国縦断ウォークでは、がんサバイバー・クラブの周知や参加、支援の要請も含め、垣添会長が2月5日の九州がんセンターを皮切りに、7月23日(予定)の北海道がんセンターまで、32施設を近いところから一筆書きのように行脚する。総移動距離は約3500キロにおよび76歳となる垣添会長の大きな挑戦となる。

訪問先周辺の患者会関係者とも



一緒に歩くなどして、がんサバイバーの切実な声に耳を傾け、がんサバイバー支援の運動を盛り上げていく。

訪問先と訪問日程、ウォークの状況など、全行程は、がんサバイバー・クラブのホームページ内の特設サイト(<https://www.gsclub.jp/walk>)で確認ができ、この中で垣添会長自身が道中の様子を発信しながら、がんサバイバー支援を呼びかけていく。



訪問予定の全がん協加盟施設の所在地

がん相談ホットライン 祝日・年末年始を除く毎日
03-3541-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3541-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
社労士による就労相談(要予約)
予約専用 03-3541-7835

日本対がん協会は医師による面接・電話相談と社労士による就労の電話相談(ともに無料、電話代は別)を受け付けています。予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までです。医師による相談は電話が1人20分、面接は30分、社労士による電話相談は40分になります。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

特集 リレー・フォー・ライフ・ジャパン

2017年度リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)活動報告

日本対がん協会RFLJ 前マネジャー 中島盛荘

2017年度は全国49地区でリレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)の活動が展開されました。大きな事故もなく、各地のリレーイベントも無事に終了する事が出来ました。まずは年間にわたって活動を支えて下さいました各地の実行委員会の皆様、側面から支えて下さったボランティアの皆様、イベント等にご参加下さいました皆様、ご寄付を下さった皆様、そして日頃よりRFLJにご支援、ご協力下さっている皆様に厚く御礼申し上げます。

今年度のRFLJも各地区で様々な再会、出会いがありました。そんな場が今年度は新たに2地区増えました。

2地区で初開催

一つは、きたかみです。岩手県内では一ノ関(平泉)、釜石に次いで3か所目となり同一県内では全国最多となりました。

そのきたかみ実行委員会とはとてもアクティブで、定期的に啓発ブースをショッピングモールに出展し、RFLJの紹介、グッズ募金、サバイバーによる講演等を行い、地元初のリレーイベントの告知も行っていました。

リレーイベントの会場は観光地である「みちのく民俗村」。移築された、いくつもの古民家はリレーイベントで大いに有効活用されました。ステージや各出展ブース、講演や休憩スペース等に古民家を活用するというこれまでになかった取り組みは、観光施設のご理解とご協力が無ければ実現しなかった



古民家を活用した初開催のきたかみ



サバイバーラップのスタート(東京御茶ノ水)

サバイバーラップのスタート(東京御茶ノ水)です。当日は事前の告知や啓発活動が功を奏し、初開催にも関わらず多くの方々が来場され、実行委員をはじめとするスタッフの皆さんが参加者に心を込めた対応をされていたのが印象的でした。参加された皆さんも緑に囲まれた素晴らしいロケーションと合わせ満足された事でしょう。

もう一つは御茶ノ水(東京)です。会場は東京医科歯科大学「知と癒しの庭」。同大学特任助教の坂下千瑞子実行委員長は、以前からご自身の勤務先でリレーイベントの開催を考えていました。数年経過した一昨年に一念発起。昨春ついに実現させました。

実行委員会メンバーは坂下実行委員長の職場と外部の方で構成されましたが、職場のメンバーは学生を中心とした若手で、ほとんどがRFLJ初経験でした。そんな方々を坂下実行委員長は自分たちで考えさせ自主的に行動してもらうよう、見守っている様子でした。

イベント準備も若手の実行委員が中心となり費用をかけずに手作りの物品製作を行い、各自で余ったグッズ類を持ち寄り、子供たちへの参加記念グッズ等に充てるアイデアを考案していました。

当日はもちろん若手の実行委員が中心となり、受付、会場、音響、啓発ブース等を準備から撤去をはじめ、イベント全体を一所懸命支えてくれている様子が印象的でした。

4地区が10周年

一方、昨年度の芦屋に続き今年度に10周年を迎えた地区もありました。北から室蘭、小松島、高知、大分の4地区でした。活動当初は地元へのRFLJの認知を得るまでに大変な思いをされていたと伺いましたが、今では多くの市民や行政にも理解を得られ、告知活動やリレーイベントの準備等にも支援や協力を得られているとの事です。「継続は力なり」という事でしょうか。

秋のリレーイベントは台風と重なり、今年度もいくつかのリレーイベントの開催を阻みました。

一部の地区では、参加を楽しみにされていた方々の為に延期して、後日2日間のリレーイベントを開催しました。別の地区では1日だけのイベント開催、さらに別の地区では事前に記載してもらったルミナリエバッグを医療施設等に展示するなど、リレーイベントを楽しみにされていた方々への配慮が伺えました。

久しぶりの仲間との再会の喜び、一歩一歩あるく事の喜び、旅立った方への想い、会場に参加できなかった方への想い、明日への希望、生きる勇気…。様々な想いを抱いて各地でドラマが繰り広げられました。

一人一人の想いが集まり、やがて大きな波を創っていく。RFLJにはそんな力があります。

引き続き、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



10周年を迎えた高知

特集 リレー・フォー・ライフ・ジャパン

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017年 収支報告一覧

	月	日	都道府県	地区	参加人数	チーム数	サバイバー数	ご寄付総額	実行経費	ACS寄付	協会寄付	振込額	寄付率
1	3	25-26	東京	御茶ノ水	1,072	23	101	1,364,996	64,996	40,950	1,259,050	1,300,000	95.2%
2	5	13-14	熊本	熊本	1,300	41	109	1,894,550	1,230,616	56,837	607,098	663,934	35.0%
3	5	13-14	和歌山	和歌山	1,500	24	150	2,242,406	1,067,322	67,272	1,107,812	1,175,084	52.4%
4	5	20-21	茨城	つくば	850	23	89	2,083,230	1,566,414	62,497	454,319	516,816	24.8%
5	5	27-28	大阪	大阪	600	31	33	576,739	132,739	17,302	426,698	444,000	77.0%
6	6	10-11	兵庫	神戸	1,500	48	75	2,178,012	1,462,869	65,340	649,803	715,143	32.8%
7	6	24-25	青森	八戸	2,050	34	60	2,045,982	1,309,347	61,379	675,256	736,635	36.0%
8	7	22-23	北海道	苫小牧	1,000	24	54	2,540,704	1,862,672	76,221	601,811	678,032	26.7%
9	8	26-27	北海道	室蘭	1,200	27	50	2,652,238	1,661,078	79,567	911,593	991,160	37.4%
10	8	26-27	宮城	仙台	612	83	103	1,216,773	800,528	36,503	379,742	416,245	34.2%
11	8	26-27	山形	鶴岡	200	5	23	595,519	251,306	17,866	326,347	344,213	57.8%
12	8	26-27	新潟	新潟	1,111	32	108	3,551,299	2,862,024	106,539	582,736	689,275	19.4%
13	9	1-2	山梨	甲府	520	27	150	1,212,625	896,135	36,379	280,111	316,490	26.1%
14	9	2-3	青森	青森	823	17	90	1,028,136	509,045	30,844	488,247	519,091	50.5%
15	9	2-3	岩手	北上	550	15	57	1,594,171	760,996	47,825	785,350	833,175	52.3%
16	9	2-3	岩手	平泉	1,600	44	29	5,092,175	3,889,131	152,765	1,050,279	1,203,044	23.6%
17	9	2-3	福井	福井	750	43	120	1,454,687	975,820	43,641	435,226	478,867	32.9%
18	9	2-3	兵庫	芦屋	2,000	50	100	4,357,749	3,162,143	130,732	1,064,874	1,195,606	27.4%
19	9	2-3	愛媛	松山	2,513	40	136	4,624,436	3,548,525	138,733	937,178	1,075,911	23.3%
20	9	9-10	岩手	釜石	160	24	11	577,651	318,075	17,330	242,246	259,576	44.9%
21	9	9-10	埼玉	さいたま	3,500	53	110	3,323,104	1,970,736	99,693	1,252,675	1,352,368	40.7%
22	9	9-10	静岡	静岡	1,615	28	85	2,883,187	1,110,024	86,496	1,686,667	1,773,163	61.5%
23	9	9-10	岐阜	岐阜	721	21	97	1,077,012	227,703	32,310	816,999	849,309	78.9%
24	9	9-10	長野	松本	2,000	30	40	2,330,784	1,714,877	69,924	545,983	615,907	26.4%
25	9	9-10	福岡	福岡	1,294	49	109	2,189,697	1,489,389	65,691	634,617	700,308	32.0%
26	9	16-17	栃木	壬生	2,059	48	100	6,173,528	4,174,696	185,206	1,813,626	1,998,832	32.4%
27	9	16-17	埼玉	川越	2,000	40	200	3,279,206	2,318,993	98,376	861,837	960,213	29.3%
28	9	中止	山口	周南	0	18	23	883,353	372,777	26,501	484,075	510,576	57.8%
29	9	16-17	静岡	長泉	400	12	42	1,215,632	429,452	36,469	749,711	786,180	64.7%
30	9	23-24	愛知	岡崎	3,176	38	222	2,651,249	2,065,030	79,537	506,682	586,219	22.1%
31	9	23-24	佐賀	佐賀	1,600	41	187	3,160,549	2,402,788	94,816	662,945	757,761	24.0%
32	9	30-10/1	東京	上野	8,500	50	207	5,969,824	2,550,383	179,095	3,240,346	3,419,441	57.3%
33	9	30-10/1	神奈川	横浜	1,200	40	60	2,310,129	1,607,904	69,304	632,921	702,225	30.4%
34	9	30-10/1	愛知	豊川	571	16	18	1,812,947	526,114	54,388	1,232,445	1,286,833	71.0%
35	9	30-10/1	京都	京都	300	14	37	650,005	164,230	19,500	466,275	485,775	74.7%
36	9	30-10/1	徳島	徳島	780	12	42	1,025,737	690,440	30,772	304,525	335,297	32.7%
37	10	7-8	福島	福島	3,000	40	200	5,287,187	2,234,589	158,616	2,893,982	3,052,598	57.7%
38	10	7-8	群馬	前橋	7,800	76	195	6,182,801	3,946,098	185,484	2,051,219	2,236,703	36.2%
39	10	7-8	徳島	小松島	388	27	36	635,965	365,623	19,079	251,263	270,342	42.5%
40	10	7-8	滋賀	滋賀医大	700	16	47	1,730,505	901,013	51,915	777,577	829,492	47.9%
41	10	8-9	広島	広島	600	41	56	2,959,590	1,259,590	88,788	1,611,212	1,700,000	57.4%
42	10	14-15	奈良	天理	500	22	44	980,608	723,209	29,418	227,981	257,399	26.2%
43	10	28-29	香川	高松	611	17	29	2,194,543	856,578	65,836	1,272,129	1,337,965	61.0%
44	10	28-29	大阪	貝塚	610	36	33	1,497,618	1,179,413	44,929	273,276	318,205	21.2%
45	11	3-4	高知	南国	2,300	40	50	3,072,167	2,192,023	92,165	787,979	880,144	28.6%
46	11	3-4	大分	大分	6,700	60	160	4,190,559	914,118	125,717	3,150,724	3,276,441	78.2%
47	11	11-12	沖縄	浦添	1,000	10	100	1,803,728	1,221,403	54,112	528,213	582,325	32.3%
48	11	25	長野	長野	300	35	40	3,979,873	1,166,023	119,396	2,694,454	2,813,850	70.7%
49	12	2-3	宮崎	宮崎	852	23	47	3,094,534	2,148,107	92,836	853,591	946,427	30.6%
			2017年 合計 (49会場)		76,988	1,608	4,264	121,429,699	71,255,104	3,642,891	46,531,704	50,174,595	41.3%

台風の影響の為山口はイベント中止、長野は後日1日のみのイベントを開催

※ ACS 寄付=アメリカ対がん協会に対するロイヤルティ

寄付金は日本対がん協会を通じて、がん医療の発展のための「プロジェクト未来」、「若手医師育成奨学金」や患者支援の「がん相談」や「検診推進」に役立てられます。一部はRFLJの運営資金に充てられます。

2018年「ヒーローズ・オブ・ホープ」受賞者決定

「ヒーローズ・オブ・ホープ」は、アメリカ対がん協会(ACS)から認定される荣誉ある賞。自らの病と闘い、人々に希望や勇気を与え、前向きにがんに立ち向かうサバイバーの代表として、リレー・フォー・ライフ(RFL)に参加する世界各国から選ばれる。日本では日本対がん協会がACSに推薦し、ACSの選考を経て決定する。本年度は全世界から36人が選出され、日本からは明路さんと、神波さん、小沼さん、國光さんの4人が選出された。

行けば笑顔になれるRFL

明路 英雄さん(RFLJ芦屋 サバイバー)



明路さんが初めてがんと診断されたのは32歳のとき。甲状腺がんだった。家族を支えるためにバリバリ働いていた矢先で、この先どうなってしまうのか、大きな不安に襲われた。当時はがんであることを周りに言えるような環境ではなく、親戚にも会社にも打ち明けられない孤独な闘いだったが、家族の存在と素晴らしい医師との出会いのお陰で乗り越えられた。しかし、切除手術後15年間、ホルモン剤を服用して完治し、病気の事も忘れかけていたある日、全く別のがん

が肝臓に見つかった。

もうがんとは無縁だと思っていた明路さんは、2度目のがん告知を受けて、今度こそダメかもしれないと思った。インターネットで肝臓がんについて調べていくうちに、全く同じ経験をした人のブログを見つけた。その人が参加していたのがRFLだった。参加者の笑顔がとても輝いていた。ここに行けば自分も笑顔になれるのだろうかかと興味を持ち、自分の住んでいる地域でもRFLを開催しようという呼びかけに手を挙げて、実行委員会に加わり活動を始めた。

初めて参加したRFLでは、がんであることを誰にも言えずに来た自分を「隠す必要はないんだ、受け入れてもらえるんだ」という安心感と、これからの治療も必ず乗り越えられるという希望をもらい、涙が止まらなかった。その後2度の手術を経て、毎年実行委員長として、よ

り多くのがんサバイバーに胸を張って生きていてもらうため、RFLの活動を続けている。「がんの経験はとてつらかったが、あの経験があったからこそ、健康や命、家族や友人、私を取り巻く人達の大切さに気づき、RFLにも出会う事が出来ました。これからの人生、RFLと共に笑顔で歩んでいきます。RFLは私の人生そのものです」

受賞後のコメント

この度の受賞を2007年、日本最初の24時間イベント立ち上げから11回連続で開催して来た「RFLJ芦屋」の実行委員会、芦屋市関連支援団体、ボランティア・チーム全員の皆さんと分かち合い共に喜びたいと思います。「がんと闘う力は人とのつながり」。これからも共にがん征圧の道を進みたいと思います。

体験を多くの方に伝えるのが使命

小沼 芳子さん(RFLJ室蘭 サバイバー)



2008年に小沼さんの属する患者会の代表が地元の室蘭で立ち上げたイベントが小沼さんとRFLとの出会いだった。代表のRFLへの想いは大変強く、小沼さんや患者会の方々が準備と一緒に手伝い、イベントを実施した。

初参加のイベントは何が何だかわからないまま終了してしまった記憶があるが、2年目には、何となくイメージが湧いてきて、進んで手伝いができるようになっていた。その患者会の代表(初代実

行委員長)が旅立つ前に、「自分の想いを引き継いで欲しい」と言われ、小沼さんの使命感が生まれた。

小沼さんは甲状腺がんで手術を行い、一度は抗がん剤治療ではなく別な治療法を選択したこともあった。検診の大切さや命の大切さを身に染みて感じているからこそ、同じような苦しみや悩みを抱えている人の力になりたいと、患者会代表として相談やアドバイスを行っている。

同時に、毎年、検診の大切さや愛する人を失った方の癒しの場所となるようなイベントのアイデアを考え、実行委員長として携わっている。また、他団体と協力して、室蘭市の「がん対策推進条例」制定を施行まで実現させた。これはとても嬉しい出来事だったと振り返る。

今年で10年目を迎えたRFLJ室蘭は、新しく入ってきた実行委員やボランティ

アの方々へRFLの想いや検診の大切さを伝えている。小沼さんはそれが「命のリレー」と感じている。今後も出来る限り、RFLを通して想いを伝え、想いを聞き、そしてがんについての正しい知識と検診の大切さを訴えていきたいと考えている。

受賞後のコメント

ヒーローズ・オブ・ホープに選ばれたことはとても嬉しく、10年続けた仲間の代表でいただいたと思っています。昨年リレーイベントを目の前にして、定期検診で新たながんが見つかり、イベントが終わった一か月後に手術で無事に摘出。左腎臓後腹膜脂肪肉腫で希少がんでした。この体験を多くの方に伝えていく使命を強く感じました。

RFLがあれば世間の偏見が変わる

神波 やす江さん(RFLJ静岡 ケアギバー)



神波さんは57歳の時、当時34歳の息子さんの体調の異常に気づき、検査を受けさせたところ、翌朝、すぐに来よう呼び出され、本人より先に大腸がんの告知を受けてしまった。頭が真っ白になり、泣きながら夫に電話をしたのを覚えている。家族みんなが不安を抱える中、息子さんは、がんと闘う意思を表わすためにブログを始めた。同じ病で闘う仲間の温かい励ましのメッセージが、家族のどんな言葉よりも、息子さんの胸には力強く響いたようだった。

神波さんも息子さんのブログを読むなど、ネットでがん情報を集めていたところ、ある男性肺がん患者のブログにたどりついた。その時はまさかその男性が日本でRFLを実現させる存在になるとは夢にも思っていなかった。また、息子さんが抗がん剤の治療中にアメリカのRFLが放映されたテレビ番組を見た。笑顔で誇らしげに歩く人たち、笑顔と拍手、歓声で迎えている人々の姿を見て、アメリカと日本のがんに対する認識の大きな違いに衝撃を受けた。

「日本でもRFLがあれば、世間の偏見が変わるかもしれない」と思っていたところ、あのブログの男性が「日本でRFLを実現しませんか」と開催を呼びかけたのを知り、神波さんは「一緒にやりたい」とすぐさま手を挙げた。各地から集まった若者に交じり、主婦のリレー活動が始まり、神波さんは毎月、新幹線に乗って

新横浜や東京の会議に参加した。この時に繋がった若い仲間の協力が、その後、静岡でRFLを開催する時に大きな力と支えになり、今の静岡実行委員会の活動が続いている。2年前に息子さんは10周年のセカンドバースデーを迎えることができた。

神波さんの現在の最大の課題は、治療の後遺症もあり未だ同居中の息子さんを独立させること。それが母としての願い『希望』だ。

受賞後のコメント

ケアギバーとして第1号の受賞。身に余る光栄です。シュウさん(2010年GHOH認定)と出会い、たくさんの人と繋がり、助け合い支えあい一緒に歩いてきました。リレーの仲間と共にこの賞を分かち合います。本当にありがとうございます。

がん患者がいきいきとできるRFL

國光 由美子さん(RFLJやまぐち サバイバー)



國光さんは2001年に乳がんを発症し、左全摘手術後に抗がん剤治療とホルモン療法を行った。その7年後、肝臓に転移し、再びホルモン療法を行うことになった。さらにその5年後に甲状腺がんの手術で、甲状腺右全摘手術をし、現在もホルモン療法を続けている。

がんになって國光さんは、人に生かされたと思うようになり、人のために生きようと考えた。元々は人と接するのが苦手だったが、どんどん外に出るようになって、人との出会いを楽しく感じるようになった。その結果、生き方が変わり、人

を応援することに生きがいを感じるようになった。

RFLを知ったのは06年。つくばで開催されたRFLに友人が参加したのを知り、國光さんもいつか参加してみたいと思っていた。その友人の引越越し先の福岡でRFLが始まる報告を受け、09年はボランティアで参加。2年目からは実行委員として参加した。

初めて参加した時に、RFLは自分ががん患者だとオープンにできて、色々な人の体験談を聞いたり、相談したりして交流がもてる、がん患者が生き生きとできる場所だと思った。がん患者でも元気で明るく生きていることを発信できて、みんなから元気をもらえる、生きる希望や勇気を与えてくれる、来年も会おうねと生きる目標が持てる、そんなRFLを自分の地元の山口でもいつかやってみたい。山口の人々にRFLを教えてあげたいと思い、12年から宇部市のイベントに出店

し、RFLのPR活動・募金活動を続けてきた。

そして2016年について山口でRFLを開催。年々仲間が増え、みんなで助け合いながら楽しく活動をしている。

写真を撮るのが好きな國光さんは自分の撮った参加者の笑顔の写真を見て、みんなが喜んでくれることに幸せを感じている。RFLに出会ってから、がん患者のために何かしたいと思うようになり、がん患者のためになるならと活動を続けている。

受賞後のコメント

この賞は福岡実行委員会とやまぐち実行委員会の皆様と共に頂いたものだと思います。心より御礼申し上げます。これからも自分の力でできることでRFLの活動を続けていきたいと思っています。

RFL参加のがんサバイバーにアンケート

治療中や経過観察中での参加が7割 告知後早い段階での参加者も

日本対がん協会が運営するがんサバイバー・クラブでは2017年7月から12月に全国33地域で開催されたリレー・フォー・ライフ(RFL)に参加したがん告知経験者(がんサバイバー)に対して、患者会活動や治療状況などについてのアンケートを実施した。RFL会場での用紙記入やインターネットでの回答によるもので、472人が回答を寄せた。回答者の約7割が現在治療中か経過観察中の人たちで、告知を受けて2年未満の人が約1割を占めており、RFLががん告知後に比較的早い段階で認識されていることがうかがわれた。

回答があった472人は、10代以上の男性101人、女性371人。50代が134人(28.4%)で最も多く、次いで60代127人(27.0%)、40代80人(16.9%)、70代58人(12.3%)と続き、50代以上が約7割を占めた。

告知されたがんの種類では、女性の回答者が多かったことから、乳がんが237人(47.6%)と最も多く、胃がん33人(6.6%)、子宮がん29人(5.8%)、大腸がん26人(5.2%)、肺がん20人(4.0%)、白血病18人(3.6%)などと続いた。

告知を受けてからの期間では、10~11年が58人(12.4%)と最も多く、

11年未満が70%を占めたが、1年未満が16人(3.4%)、1~2年が36人(11.1%)と1割以上いた。

また、参加者の現在の治療状況については経過観察中の人190人(39.7%)と最も多く、次いで治療中が151人(31.6%)で、併せて7割を占めていた。治療中や経過観察中でも、積極的に仲間を求めて外に出る患者が多いことをうかがわせた。

7割が患者会活動に継続的に参加

さらに患者会への参加経験の質問には、317人(65.6%)が「継続的に参加している」と回答。この継続的に参加している人の中で、治療中の人112人、経過観察中の人122人おり、こちらも併せて継続的な参加者の7割を占めていた。

実際に患者会を運営していると答えた人は73人で、回答者の15.1%を占めていた。

「今困っている事」への設問には918件の回答があり、体力低下が126件(13.7%)で最も多く、次いで気持ちのコントロール、後遺症、お金、信頼できる情報、これからの生活、仕事と続いた。

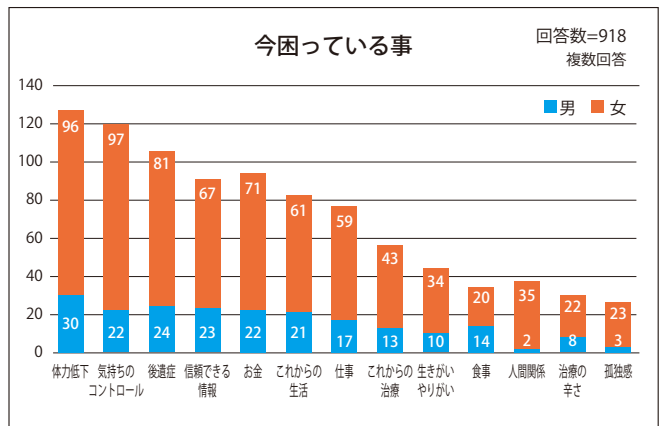
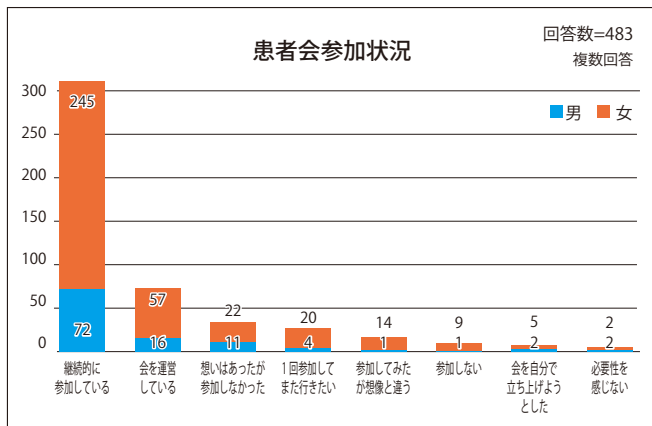
また、「がんと向き合う中でこうなっしてほしいと思うこと」を自由記述し

てもらったところ、247件の回答があった。内訳は、「患者会・ピアサポート・支え合い」に関するものが58件(23.5%)と最も多く、「がんに対する社会の正しい理解」に関するものが55件(22.3%)、「医療に関することや、均てん化の徹底、がん相談」に関するものが38件(15.4%)、「正しい情報の調べ方」に関するものが36件(14.6%)、「治療と仕事・職場の理解」に関するものが35件(14.2%)だった。

「患者会・ピアサポート・支え合い」に関するものでは、「気軽に立ち寄ってがんの話ができる場所の確保を」(40代女性)や「もっと自由ながんのことを話せる環境になったらいい」(40代女性)といった声が出ていた。

また、「がんに対する社会の正しい理解」に関するものでは、「直属の上司の理解がないと、結局会社が受け入れても働きづらい」(50代女性)など、社会のがん患者への差別、就職のしにくさなどを指摘する記述が目立った。

アンケートをまとめたがんサバイバー・クラブ運営委員会の横山光恒・日本対がん協会マネージャーは、「寄せられた意見から、RFLに参加している人でもがんに関して差別を受けている人がまだまだ多いことがわかった」としている。



古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

charibon by **VALLE BOOKS**

詳しくは「チャリボン」

<http://www.charibon.jp/partner/JCS/>

お問合せ(株式会社バリューブックス)：0120-826-295

受付時間：10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)

がんサバイバーを心疾患から守ろう 「カーディオ・オンコロジー」 注目される新たな学際領域

「カーディオ・オンコロジー(腫瘍循環器学)」という新たな学際領域が注目されています。心疾患と腫瘍の両方の観点から「がんサバイバー」を守ろうという取り組みです。背景にあるのは、がんの治療成績向上に伴う「心疾患の増加」です。抗がん剤や放射線治療に伴う心疾患には対策がとられてきましたが、新たに開発された薬剤の副作用や長期生存者の心疾患への対応も欠かせません。欧米では腫瘍・循環器疾患両分野の専門家が連携して対応する動きが具体化しています。日本でも最近、関連学会で共同のシンポジウム等が開催されるようになってきました。

昨年7月、神戸市で開催された日本臨床腫瘍学会で、同学会と日本循環器学会との合同シンポジウム「カーディオ・オンコロジー 循環器専門医と腫瘍内科医の連携」が企画されました。一昨年も日本循環器学会、日本心臓病学会でカーディオ・オンコロジーをテーマにしたシンポジウムが開かれるなど、ここ数年、関連学会でカーディオ・オンコロジーへの関心が高まっています。

循環器専門医でカーディオ・オンコロジーに詳しい佐瀬一洋・順天堂大学院医学研究科教授(臨床薬理学)によると、欧米では、拠点となる医療機関の連携をはじめ、学会や国レベルでの支援が進み、心不全や冠動脈疾患、不整脈など様々な心疾患に関して基礎や臨床の研究、さらに疫学研究について、ガイダンスが示されています。

欧州学会はリスク公表

欧州心臓病学会のがん治療と心血管への毒性に関する作業部会は、抗がん剤や分子標的治療薬による心不全の発症リスクをまとめて公表しています。

化学療法に関係する心筋の障害は古くから知られてきました。分子標的薬などの新しい薬剤が併用されるようになってリスクが複雑化し、最近注目の免疫チェックポイント阻害剤でもまれながら重い心筋炎が起きることが報告されています。

ほかにも徐脈から頻脈まで、がん治療中には様々な不整脈が起きることも知られており、心臓弁膜症や高血圧症、血栓症などの管理も重要です。

世界に類を見ない超高齢化社会にあ

って、糖尿病や循環器疾患を患っている人ががんを発病するケースも今後、さらに増えることが確実視されます。

加えて大きな課題となっているのは長期的な影響です。がんの治療成績が向上し、全国がんセンター協議会のまとめによりますと、胃がんや大腸がんでは、10年相対生存率が

70%近くになっています。特に乳がんの場合は80%を超える数字が示されています。

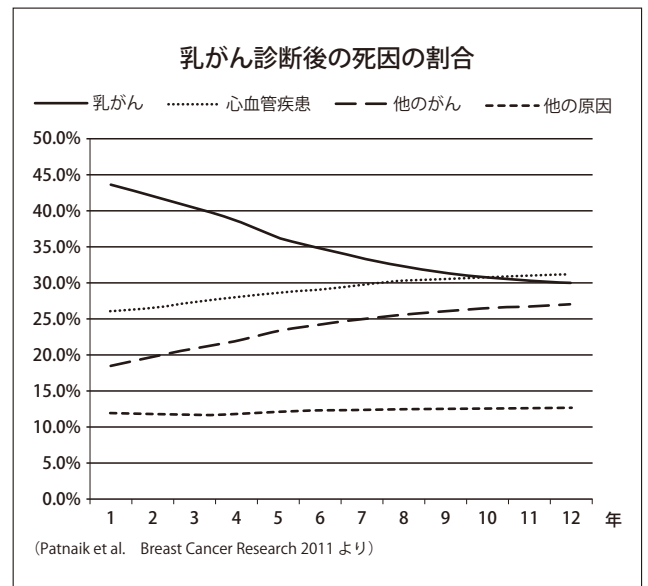
乳がんの場合は…

著しい乳がん治療の進展を支えるのは多くの薬剤の様々な組み合わせです。ところが、米コロラド大の研究者らが2011年、こんな研究を報告しています。

66歳以上の乳がん患者約6万5千人のデータ(年齢、進行期、治療法など)を1992年から2000年にかけて追跡して調べたもので、約9,600人(15%)が乳がんで亡くなり、約2万3千人(36%)が他の原因で死亡していました。

治療開始後、乳がんによる死亡の割合は下がりますが、心血管疾患リスクは他の競合リスクの2倍以上、乳がん診断後、9年ほどすると、心血管疾患による死亡の割合が乳がんを上回っています＝グラフ参照。

年代別、進行期別にみると、75歳



以上で早期の場合、治療前の評価、治療中のモニタリング、長期生存者へのケアで心疾患リスクを減らすなど、カーディオ・オンコロジーの効果が最も期待できることがわかります。

がん治療は進展し、がんを体験しても、がんを体験していない人と同じように生活を送る人が増えます。がんサバイバーにとっては、がん治療のその長期的かつ様々な影響にも注意を払う必要があります。

佐瀬教授は悪性骨軟部肉腫を体験したがんサバイバー。「日本でもようやくカーディオ・オンコロジーの重要性が国や学会レベルで認識されてきました。世界一の高齢化社会である日本でも、心疾患を想定したがんの診療ガイドラインを作成するとともに、がんサバイバーの方々の協力を得て、診断後に長期的にフォローし、データを蓄積・分析する仕組みを早急に整える必要があります」と話しています。

(小西宏・日本対がん協会マネジャー)

シリーズがんと就労⑦

NPO法人5 years代表理事 大久保 淳一さん

まず運用から入る米国式就労支援



大久保淳一さん

北海道・サロマ湖の100kmウルトラマラソンに毎年挑戦しているがんサバイバーでNPO法人5 years代表理事の大久保淳一さん(53)は、外資系の金融会社で働いていたから、日本の会社とは「異次元」の復職を体験した。シリーズ7回目は、大久保さんに米国式就労支援制度と運用を聞いた。

——マラソン歴は長いのですか。

いや、始めたのは2000年です。ゴールドマン・サックス(米国の大手金融グループ)に転職し、営業でお客さんに「何でもやりますからお取引を」とお願いすると、「ホノルルマラソンと一緒に走りませんか」と誘われました。一回行けばいいと思ったのに10キロの大会やハーフマラソンにも付き合わされ、走ったら大好きになりました。

——それにしても、100キロなんて。

絶対にできそうにないから、40歳を前に挑戦してみようと思いました。家族も大反対でしたが、12時間39分41秒で完走。待っていた子供たちと一緒にゴールイン、至福の時でした。

——その4年後、がんが見つかった。

練習で右足首を骨折して入院。入院中に精巣腫瘍に気がきました。ステージⅢ-B。深海の底に沈んで行くような寂しさと恐ろしさを感じてました。

——二度の外科手術と抗がん剤治療、合併症の間質性肺炎とも闘った様子はブログで読ませていただきました。

そうですか。私自身、インターネットで懸命に探しましたが、元気になった人の情報はほとんどなかった。患者に必要なのは「希望」と「情報」と「癒や

し」で、サバイバーの体験談こそ大きな希望につながりますから。

——寛解しての職場復帰が1年半後。復職は特に問題なかったのですか。

ゴールドマンには①有給休暇のほか、②病気休暇(1週間以内、何回でも)と③療養休暇(1週間以上、要診断書、勤続年数で最長12カ月)があって、違う病気なら何回でも休める。②も③ももちろん有給。有給休暇は病気に使わず、リフレッシュ用ですから。

——随分と手厚い休暇制度ですね。

42歳でがんになり、お金と雇用は全く心配なし。人事に説明を受け上司から「元気に戻って来るのをずっと待っている」と言われ、泣きそうでした。

サバイバーの就労のカギは制度と運用ですが、制度は導入スピードが遅くコストがかかる。運用は導入が速く、コストはゼロ。日本は制度作りから始めるのに、向こうは運用から入ります。

——なるほど。そのほうが合理的で始めやすいかもしれませんね。

制度がなくても運用はできるという発想があります。私は入院中に病室でお客さんとの会議や面接試験もし、パソコンも持ち込みました。上司に相談したら「就業規定で禁じてないからOK」でした。恐らく、日本の会社なら「前例もなく認められない」でしょう。

——復職はすんなりだったのですか。

苦労した覚えは全くありません。ゴールドマンは「体調にあわせて好きなときに出てくればいい」とリハビリ出社を認めてくれました。フレックスタイムや在宅勤務は、出産や介護に限らず誰もが使えました。

現実には、入院や自宅療養で体力も筋力も落ちているし、体調は日によって全然違う。朝起きて満員電車で会社に行くだけで消耗します。駅までで疲れて帰ったこともある。週5日勤務できるなら復職という会社もありますが、私の場合は、リハビリ出社という慣らし期間があったからわずか半年で復職できたのだと思います。

——大久保さんが以前勤めた日本の大手石油会社との違いは何ですか。

日本式経営の権化のような会社から恐らく対極にある米国式経営の権化に転職した形です。ゴールドマンは、強い組織を作るため、何よりダイバーシティー(多様性)を重視する。人種や国籍、宗教、年齢、病気、未婚・既婚、LGBT(性的少数者)などで一切不利益に扱わないことで、徹底して優秀な人間を集めます。がんサバイバーの就労もしごく当然のことなんです。

——ゴールドマンにも元がん患者は大勢いるのですか。

もちろん。私のメンター(相談相手)だった同僚の米国人女性は、乳がんを診断された時、医師から二枚の紙をもらいました。彼女と同タイプの乳がんのサバイバーの名前と連絡先が並んでいて、いつでも相談に乗ってくれる人たちのリストでした。彼女はその紙を宝物のように持ち帰ったそうです。

日本は、個人情報もあって患者の体験も病気もあまり話題にしない。あなたが変えなさいと彼女に言われました。

——会社を辞めた後、2015年2月に立ち上げたのが「5 years」ですね。

米国には「Patients like me」という患者組織があって60万人が登録しています。その日本版を目指して、生活情報や元気になった人の経験や情報を発信しています。登録者は4000人を超え、相談があると経験者たちが一斉に反応して、SNSやテレビ会議で意見交換もできます。巨大なネット空間で登録した誰もがここで「マイ・ヒーロー」を見つけてほしいのです。

(聞き手 ジャーナリスト 清水弟)

大久保さんは「5 years」(<https://5years.org/>)のほか、「がん患者100万人のための生活情報メディア」という「Millions LIFE」(<https://www.millions.life/>)ではサバイバーの闘病体験なども発信。執筆と講演も精力的に行なっている。